

2022年度西宮市予算案

引き続き コロナ対応も

市長選を控えての「骨格」予算案

コロナオミクロン株感染急拡大で、市民に不安が広がり、市役所業務もひっ迫しています。(2面に記事)
そうしたさなか、西宮市の2022年度当初予算案が発表されました。3月に市長選挙を控えての予算案は、これまで公表していた新規拡充事業も若干は含まれていますが、「骨格」予算案となります。今年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応のほか、老朽化した学校施設の計画的な改築・改修(80年使用する長寿命化計画による)や、保育所待機児童対策などに重点配分されています。また、中学校体育館に続き、小学校体育館にエアコン設置、公的施設の照明設備のLED化が順次取り組まれます。

一般、特別、企業会計の総額は3322億2600万円余で、前年度からマイナス0.1%減。一般会計予算は、6年連続の増、阪神淡路大震災直後の1995年度を除いて過去最大の規模です。

<歳入について>

歳入の根幹である市税は、景気の緩やかな回復基調が見られることから、2021年度比2.4%の増、総額871億3500万円を見込んでいます。

また、コロナの影響による消費の落ち込みが2021年度に比

して少ないと想定し、地方消費税交付金は、前年度比8%増、総額103億4800万円が見込まれています。

2021年度は、コロナの影響で個人市民税、法人市民税などで減収が見込まれ、減収を補う国からの地方交付税は2020年度比60%増額でしたが、2022年度は税収増で、実質地方交付税は減額を見込んでいます。

2022年度予算総額				
	2021年度	2022年度	増減額	増減率
一般会計	1938.56億円	1958.28億円	19.72億円	1%
特別会計	908.85億円	904.10億円	△4.74億円	△0.5%
企業会計	476.89億円	459.87億円	△17.01億円	△3.6%
総計	3324.30億円	3322.26億円	△2.03億円	△0.1%

<歳出について>

第二庁舎や西宮消防署、分銅・末広町市営住宅の完成等で減の一方、民生費で児童保育費や障がい者介護給付費の増、教育費では、学校の大規模改修(段上小、甲陽園小、安井小、瓦木中)、小学校体育館空調設備、学校施設照明設備のLED化などでの増が顕著です。また、コロナ対策では、3回目のコロナワクチン接種や保健所体制強化のための派遣職員配置増などがみられます。

2/1 臨時議会で

子どもへ市独自給付金支給決定！

国の事業による子育て世帯への臨時特別給付金は、市内約6万5千人の18歳未満の子どもを育てる世帯に、昨年末、1人10万円が支給されました。

この度市では、①基準日以降に離婚するなどして養育者が受け取れなかった世帯、②所得制限により支給対象とならなかった世帯について、独自に、①については児童1人当たり10万円、②は1人5万円支給することを決定しました。2月1日に開催された臨時市議会で提案、可決されました。

①については約200人、②については約1万8千人が

見込まれます。経費は、事務費を含め約9億5千万円。財源には自治体が独自に活用できる、国からの地方創生臨時交付金をあてます。

住民税非課税世帯等には 国による臨時給付金

住民税非課税世帯(約5万6千世帯)と、家計急変世帯(2021年度分の収入見込み額が非課税世帯並みに減じた世帯、約5600世帯)に、1世帯10万円の臨時特別給付金が国制度により支給されます。家計急変世帯は2月7日以降に申請の受付開始。

2022 年度当初予算案の主要な事業の概要

(1 面記事にある事業は除く)

<公 園>

- ・公園リニューアル事業（ハツ松公園）
- ・旧芦原小グラウンド再整備（芝生広場拡張）
- ・阪神国道駅前（統合新病院前）公園整備
- ・西宮浜総合公園整備（人工芝広場）

<子ども・教育>

- ・保育士確保事業（市内民間保育所保育士への一時金支給）
- ・公立保育所改築（上之町保育所、津門保育所・津門児童館）
- ・不登校対策で浜脇地区、上ヶ原地区に教育支援センター開設。公民館を活用したあすなろ学級開設。
- ・学校トイレ改善（築 40 年以上のトイレ改修、洋式化）
- *生活困窮世帯の子どもの学習支援（中 3→中 1～3 に拡大）
- *子育て世帯訪問支援（家事・育児に不安のある世帯、ヤングケアラーのいる世帯にヘルパーが訪問）
- *子育て家庭ショートステイ（児童の預け先を里親居宅にも拡充） 【*印は、募金等をもとにしたコロナ基金を活用】

<福祉・健康>

- ・統合新病院整備（2025 年度開院予定で建設工事着工）
- ・高齢者のフレイル対策（健康寿命延伸めざし保健師、歯科衛生士などが個別、集団指導）

<環境・都市基盤>

- ・東部総合処理センターに、ビンカン等の破碎選別施設整備
- ・白水峡墓苑に合葬式墓地を整備
- ・（仮称）越木岩センター整備

ごみ指定袋制で市と懇談

「4 月実施延期・再考を」



日本共産党西宮市委員会と党議員団は、4 日、4 月予定のごみ指定袋導入を延期するよう要望し、環境局と懇談しました。

自治会等からの申込みによる説明会の実施は 243 件の申し込みに対しコロナの影響による中止もあり、1 月 27 日現在 142 回(参加者 3468 人)。2013 年導入の「その他プラ」分別での説明会は 450 回実施したのに比しても、市民への説明が不十分なのは明らかです。

懇談では、「未分別のごみは収集しないとのことだが、コンテナ収集のマンションはどうするのか」との質問が出され、当局は、「その場での点検が困難なためいったん収集し、処理場で職員が手作業で確認する」と答弁。このように戸建てとマンションでの対応が違ふことは市民に理解されるものではありません。また、指定ごみ袋の価格が販売店任せになっていることも問題だとの意見もありました。

ゴミは市民のにとっては大きな問題。4 月実施は延期し、再考すべきです。

<その他>

- ・アスリート先生派遣（市内学校園に、トップアスリートを講師として派遣）
- ・起業家支援センター運営補助（商工会議所内にセンター設置）



コロナ対応で市業務ひっ迫、 国の「なりゆきまかせ」のつけ明らか

2 月 1 日開催の議会運営委員会において市長より、「市役所業務のひっ迫」について報告がありました。濃厚接触者の取り扱いやワクチン 3 回目接種のタイミングなど、「急な国の方針変更への対応に追われている」などとなりました。また、15 日から始まる 3 月議会運営への影響も必至です。

以下、第 6 波での市の状況について、議運での報告などをもとにお知らせします。数値は 1/31 時点のものです。

<保健所>

- ・新規感染者は 1 月度で 6537 件。第 5 波ピーク時（昨年 8 月度、2653 件）の約 2.5 倍。
- ・連日 500～700 件の発生届が夜間を中心に到着し、保健所から感染者への連絡まで 4 日程度かかっている。
- ・感染者への連絡、入院・宿泊療養調整、自宅療養者健康観察などの業務に保健所職員（派遣も含め約 170 名）に加え、各局から約 130 名の応援職員が従事。
- ・2/2 より 20～60 歳未満の無症状、軽症の感染者（全体の 5 割）の調査は簡易調査を電話で実施後、可能な者について SMS（ショートメッセージサービス）を使って実施。

<ワクチン接種>

- ・3 回目ワクチン接種が急がれる中、担当 8 名に加え、各局から 30 人以上の応援職員を配置。

<学校、教育委員会>

- ・63 校中 54 校、9 割の学校で学級閉鎖が発生。連日 80～100 件の発生報告があり、日毎に感染者、学級閉鎖が増加。
- ・保健所負担軽減のため、教育委員会が体制をとって学校と連携し濃厚接触者の特定（行動履歴の聞き取り）等実施。
- ・学校現場も学校保育所等の休業で出勤できない教師等が増加し、児童や家庭との連絡調整等各種業務で多忙化。

<こども支援局、保育所、育成センター>

- ・現場職員や児童での感染者が急増し、感染状況把握や連絡調整に休日・深夜まで追われている。
- ・子育て世帯臨時給付金支給業務など、追加業務を実施。

<職員の感染等>

- ・同一フロアでクラスター発生その他、複数の感染者発生。
- ・保育所等の休業、濃厚接触者認定で出勤できない職員も。